●マヌエレ・フィオール『秒速 5000km』の訂正

本書の訳者解題、栗原俊秀「フィオールに魅せられて」の図版のキャプションに大幅な抜けがございました。読者ならびに栗原俊秀先生には大変なご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正いたします。

図版１:『日曜の人びと』に描かれるベルリンの町並み。
図版２:迷宮のなかをさまようイカロスとダイダロス（『群青の赤』より）
図版３:原作に忠実に、シューマン『謝肉祭』の楽譜が印刷されたページ。(『令嬢エルゼ』より）
図版４:クリムトをはじめ、世紀末ウィーンの美術を研究した成果が作品のページに色濃くにじむ。(『令嬢エルゼ』より）
図版５:『インタビュー』ではモノクロの表現が用いられている。闇のなかからヒロインの肢体が浮かびあがる。
図版６:『オルセー変奏』のラストページ。アールヌーボー様式の地下鉄の入り口が美しい。
図版７:『インタビュー』の主人公ラニエロの家の本棚には、ル・コルビュジエやＦ・Ｌ・ライトの図録が並んでいる。
図版８:Ｆ・Ｌ・ライトがヴェネツィアのカナル・グランデ沿いに建てることを計画していたビル。実現しなかったはずの建造物が、『チェレスティア』の世界には存在している。
図版９:主人公ピエロの母がかつて働いていたという設定の、廃墟となった病院。６０年代にル・コルビュジエが立案した建築計画をもとに描かれている。(『チェレスティア』より）
図版１０:『ヒペリコン』に描かれる９０年代末のベルリンの町並み。右下のコマではイタリア人男性のルーベンが、ヴェネツィアのサン・マルコ広場よりベルリンのアレクサンダー広場の方が良いと語っている。
図版１１:ポツダムにあるアインシュタイン塔。柔らかな曲線がなまめかしい。(『ヒペリコン』より）